

(その127) 認知症状を抱えたご家族も諦めないで一歩ずつ (2016.4)

認知症の症状が進んでいるAさんの家族から、「家族に知らせずに、一方的に家と土地を処分しようとしている」といった相談が寄せられました。Aさんの認知能力は、この一年で著しく低下。地域包括センターの社会福祉士から、普段は海外で働いている家族のもとに「弁護士とも連絡を取っているようだ」との連絡が入りました。

早速、相談センターでは、急きょ帰国した家族、地域の不動産の方とも連携しながら解決方法を相談。この中で、Aさんが連絡を取っている弁護士事務所のほか同窓会にも、Aさんが現金で数百万円渡していることが発覚しました。「土地は処分する」と言ったり、「考え直した」と言ったりと、Aさんの主張は日ごとに変化しており、家族も「一旦納得した内容と矛盾した内容の話を、他人としている」と心配が尽きません。

Aさんは収入を心配することもあり、現在、相談センターとご家族で、土地を有効に貸し出す手段を検討しています。

また、新たに行政書士の方が相談センターのチームに加わることとなったので、後見人制度の活用など、相談を重ねながら、Aさんとご家族の心配を取り除く解決方法を考えていく予定です。

認知症状を抱える方やそのご家族には、介護やサポートの不安やストレスも重なり気味です。すぐに解決することが難しい問題も沢山ありますが、複雑で長期的な問題でも、ご家族の皆さんと相談を重ねて一歩ずつ解決していくことができます。